

がんばったね

元選管委員長の高口さん 総務大臣から感謝状



感謝状を贈られた高口さん

選挙の管理執行と啓発に尽くしたとして、元大和町選挙管理委員会委員長の高口慶一さん（豊原・79歳）に、総務大臣から感謝状が贈られました。

高口さんは平成4年から昨年末まで、13年余りにわたり旧大和町選挙管理委員会の委員、平成8年からは委員長を歴任しました。県内からは高口さんをはじめ12人が感謝状を受けました。

12月9日、市役所柳川庁舎で伝達式が行われ、石田市長が感謝状を手渡しました。市長が

菖蒲を育てて半世紀 梶島さん夫妻を表彰



表彰され、喜びの梶島さん夫妻

川下りコースの観光名所の一つになっている「梶島菖蒲園」を50年近く世話している梶島次雄さん（本町・81歳）と妻の瀧代さん（75歳）が11月25日、（社）茗溪会（東京都）から社

「人望もあり、公平・公正で職務に忠実。長い間ご苦労さまでした」と話すと、高口さんは「感謝状をいただくとは夢にも思わなかったこと。これもひとえに皆さんのお陰です」と語っていました。

会貢献活動功労者として表彰を受けました。

同会は国内外の学術、文化、教育などの振興のため各種の支援活動などを行っています。今回は梶島さん夫婦を含め全国で10組が功労者に選ばれました。

梶島さんは柳川で川下りが始まった昭和30年代に、農業のかわらわら船頭としても活躍。川下りコースの一部が殺風景だったことから、自宅横の田に旧柳川市の市花である菖蒲を植えて観光客に楽しんでもらおうと考え、昭和33年から菖蒲の栽培を始めました。次雄さんは昭和40年代から目が不自由になり、鍼灸院を開業しながら夫婦で約7アールの菖蒲の世話が続けました。昨年は紫や白など約30種4万本が見事な花を咲かせ、観光客の目を惹きました。

「菖蒲は草取りや肥料やり、消毒、株分けなど時期を見ながら早め早めに行わなければなりません。手入れが大変で、やめようと考えたこともありましたが、思いがけない賞をいただきうれいすね」と次雄さんは話していました。

市ロードレース大会 成績

優勝者は次のとおりです（敬

- 称略、表紙参照）。
- 小学1年生男子「森田優雅（二ツ河） 同女子「船津悠花（藤吉） 小学2年生男子「戸塚悠斗（同） 同女子「荒巻花奈（同） 小学3年生男子「田中大樹（同） 同女子「森理穂香（柳河） 小学4年生男子「山浦寛道（矢ヶ部） 同女子「塩塚彩加（豊

ぬくもり

温かい話題

水洋クラブが三柱神社に しだれ桜を植樹



しだれ桜8本の目録が贈られた

柳川地方の企業家グループ「水洋クラブ」が創立30周年記念事業として、三柱神社の復興と環境美化のため、しだれ桜8本を植樹し、12月16日に三柱神社へ贈呈しました。

水洋クラブの川口治彦会長は「少しでも復興の役に立てればと思い植樹しました」とあいさつ。贈呈を受けた同神社総代会の三田村力会長は「柳川の中心にあるこの神社をなんとかきれいにしたい。あ

お礼の言葉を述べました。

水洋クラブは青年会議所のOBを中心に結成され、40歳から70歳代までの22人の会員がいます。毎月経営研究の勉強会を開催し、情報交換を行っています。川口会長は「今後も植樹を続けていきたい」と話していました。

人権週間で講演会や 街頭キャンペーン

お互いの人権を尊重し差別のない明るく住みよい柳川市を実現しようと12月4日、人権週間記念講演会が市民会館で開かれました。

12月4日から10日までの「人権週間」行事の一環として、歌手で元NHKアナウンサーの吉川精一さんが「人生いつもありがとう」と題して講演。自分の親との話をエピソードに交えながら、アナウンサーならではの聞き取りやすい話し方で、聴衆を引きつけていました。



講演する吉川さん



人権意識の高揚を呼び掛けた街頭啓発

杉森女子高食物科で 幼児食実習の食卓会

杉森女子高校食物科（79人）は12月14日、15日の2日間、集団給食実習のまとめとして、市内の幼稚園児、保育園児を招き、幼児食実習食事を開きました。14日はポツポツ幼稚園の年長組19人と、保護者19人を招待。保護者には食育についての講話、園児には食材の働きなどを紹介した手作り紙芝居を披露しました。



おいしそうにお弁当をほおぼる園児たち

この日のメニューは昨年の子ども向けお弁当部門の最優秀賞を受賞した大中美輝さんの「パンダブル弁当」をアレンジしたもの。生徒たちが栄養計算なども行い、地元の野菜や果物をふんだんに使って、子どもたちの好物と混ぜて食べやすくしました。クリスマスをイメージして飾り付けされた部屋で子どもたちはおいしそうにほおぼっていました。

人権の花・ヒマワリ 栽培の3校に感謝状

「人権の花」ヒマワリの栽培に取り組み、人権意識の高揚に尽くしたとして、矢留小学校、矢ヶ部小学校、中島小学校に県人権擁護委員連合会から感謝状が贈られました。



児童に感謝状や記念品が贈られた

矢ヶ部小学校（松尾行洋校長・129人）には12月7日、柳川人権擁護委員の山田文男さん、山田茂さん、高田澄男さん、新谷雅子さんの4人が訪問。ヒマワリを育てた3年生（14人）のクラスを訪れ、感謝状や記念品を子どもたちに手渡しました。

同校の子どもたちは昨年4月に種を運動場に植え、水やりや草取りなどをして大切に育てました。夏には大人の背丈ほどに成長し、子どもたちは花びらを押し花にし、画用紙に一枚一枚貼って個性豊かな絵を作り上げました。また、秋に取った種は、11月のもちつき会でついたもちと一緒に、地区の一人暮らしのお年寄りなどに配りました。

「教育に役立てて」 大坪鉄工が市に寄付



石田市長に寄付金を手渡す大坪社長

山田茂さんは子どもたちに「皆さんが力を合わせて育てたヒマワリが、来年は地域できれいな花を咲かせてくれるでしょう。ヒマワリの花のように大きく、将来へ羽ばたいてください」と話していました。

ヒマワリ栽培は、県人権擁護委員連合会と福岡法務局が県内小学校を対象に行っているもので、市内からは3校が指定されました。

大坪鉄工（徳益）は12月8日、「教育関係に役立ててほしい」と市に30万円を寄付しました。

同社で開かれた「フィゴ祭り」の席上、大坪滋孝社長が石田市長に手渡しました。